



**2019年度  
第3四半期 決算補足資料  
2020年2月5日**

**株式会社UACJ**

## 1. 2019年度 第3四半期業績

## 2. 2019年度 通期業績見通し

## 3. タイ(UATH)の状況 ～2019年度3Q総括と今後の見通し

## 4. 構造改革の進捗

# 1. 2019年度 第3四半期業績

## 経常利益 13億円（前年同期比 58億円減）

### ■ 数量：前年同期比増

- ・国内、UATH<sup>\*1</sup>（タイ）、TAA<sup>\*2</sup>（米国）の缶材が増加
- ・自動車向けが増加

### ■ 経常利益：前年同期比 58億円（81.7%）減

#### ◎ 増益要因

- ・CUA<sup>\*3</sup>合併解消による  
持分法損益の改善
- ・TAA業績改善  
(販売増/コストダウン効果)
- ・UATH業績改善
- ・コストダウン

#### △ 減益要因

- ・棚卸評価関係による減益
- ・経営環境悪化による販売減  
(米中貿易摩擦/国内事業環境)

# 2019年度 第3四半期業績



(単位：億円)

	2018年度 3Q累計 (A)	2019年度 3Q累計 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	4,974	<b>4,628</b>	△346
連結営業利益	139	<b>56</b>	△83
棚卸影響前 連結経常利益	13	<b>61</b>	48
棚卸影響額	58	△48	△106
連結経常利益	71	<b>13</b>	△58
連結当期純利益	12	<b>6</b>	△6
Adjusted EBITDA	311	<b>336</b>	25

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

# 特別損益内訳



(単位：億円)

	2019年度 3Q累計
構造改革損失	△10
関係会社株式評価損	△54
投資有価証券売却益	5
その他	△8
計	△66
法人税等	62

※当第3四半期連結決算において、当社100%子会社であるUACJ Australia Pty.Ltd.が保有しているBoyne Smelters Ltd.の株式および同社に対する貸付金に係る評価を見直した結果、将来の回収可能性を見込むことが困難であることから、約54億円の関係会社株式評価損を計上しました。また、それに伴う税効果会計の適用により繰延税金資産を計上しています。

# セグメント別 売上高・営業利益



(単位：億円)

	2018年度 3Q累計 (A)		2019年度 3Q累計 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,004	155	<b>3,757</b>	<b>70</b>	△247	△85
伸銅品	359	14	<b>229</b>	<b>4</b>	△130	△10
加工品・関連事業	1,475	24	<b>1,438</b>	<b>25</b>	△37	1
(調整額)	△863	△54	<b>△796</b>	<b>△43</b>	67	11
合 計	4,974	139	<b>4,628</b>	<b>56</b>	△347	△83

# アルミ板 品種別売上数量



(単位:千トン)

品 種	2018年度 3Q累計 (A)	2019年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	491	<b>518</b>	27
箔 地	39	<b>33</b>	△7
I T 材	12	<b>13</b>	1
自 動 車 材	109	<b>113</b>	4
厚 板	32	<b>25</b>	△7
その他一般材	129	<b>151</b>	21
合 計	813	<b>852</b>	39
	〔 国内市場向け 382 海外市場向け 430 〕	〔 国内市場向け 368 海外市場向け 484 〕	〔 △15 54 〕

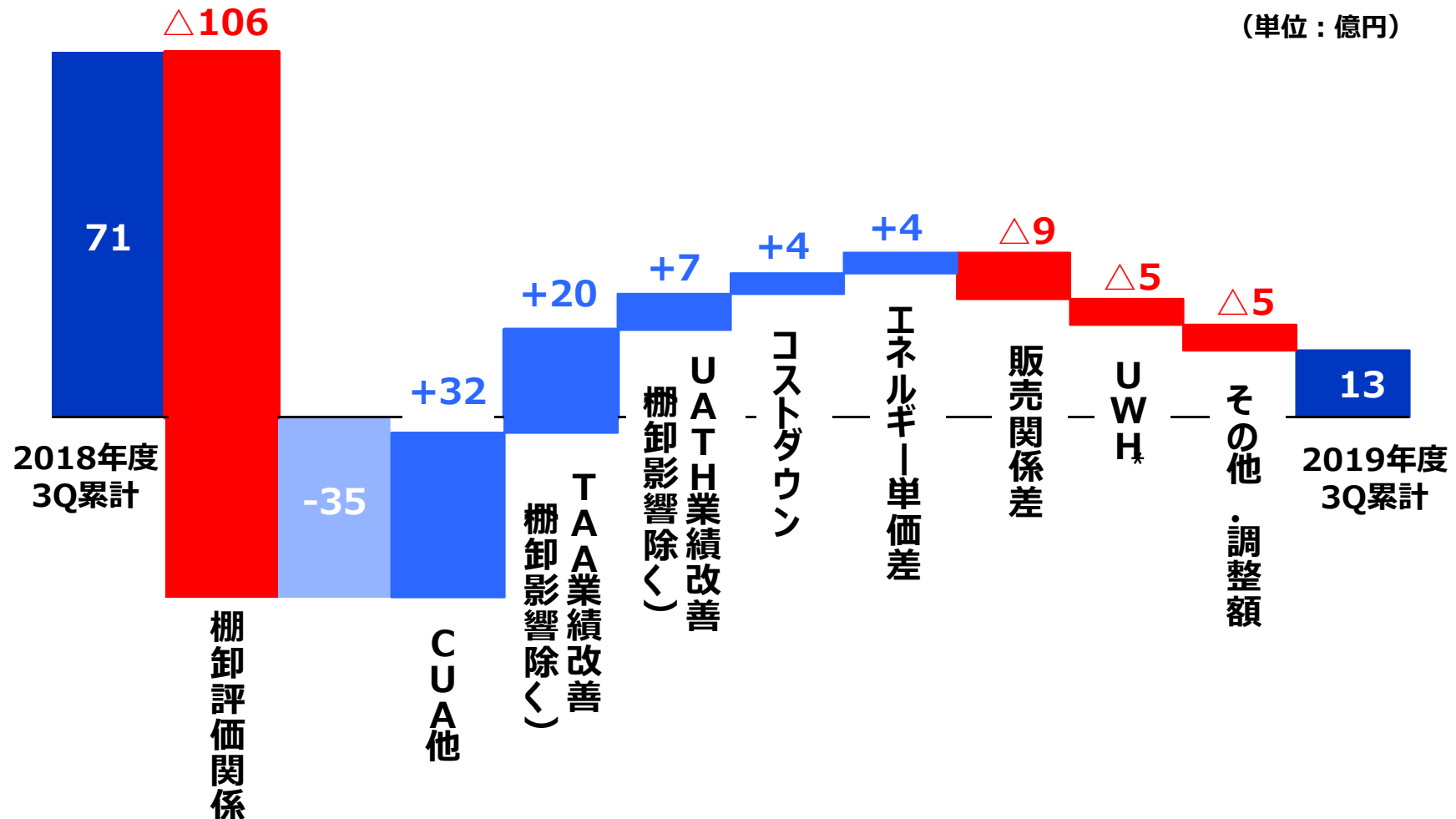


# 連結経常損益分析

(2018年度3Q累計 → 2019年度3Q累計)



71億円 (2018年度 3Q累計) → 13億円 (2019年度 3Q累計)



## 2. 2019年度 通期業績見通し

# 2019年度 通期業績見通し



(単位：億円)

	2019年度 (2Q時開示) (A)	2019年度 (最新見通し) (B)	2018年度 (C)	増減 (B) - (A)	増減 (B) - (C)
連結売上高	6,700	6,250	6,613	△450	△363
連結営業利益	100	75	149	△25	△74
棚卸影響前 連結経常利益	95	88	30	△7	58
棚卸影響額	△55	△68	32	△13	△100
連結経常利益	40	20	62	△20	△42
連結当期純利益	-	10	11	-	△1
Adjusted EBITDA	482	470	426	△12	44

**2019年度 年間配当 20円**

# アルミ板 品種別売上数量（最新見通し）



品 種	2019年度 (2Q時見通し) (A)	2019年度 (最新見通し) (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	729	714	△15
箔 地	45	43	△3
I T	16	17	1
自 動 車	155	151	△4
厚 板	35	36	1
その他一般材	199	198	△1
合 計	1,179	1,159	△20
	国内市場向け 501 海外市場向け 678	国内市場向け 479 海外市場向け 680	△22 2

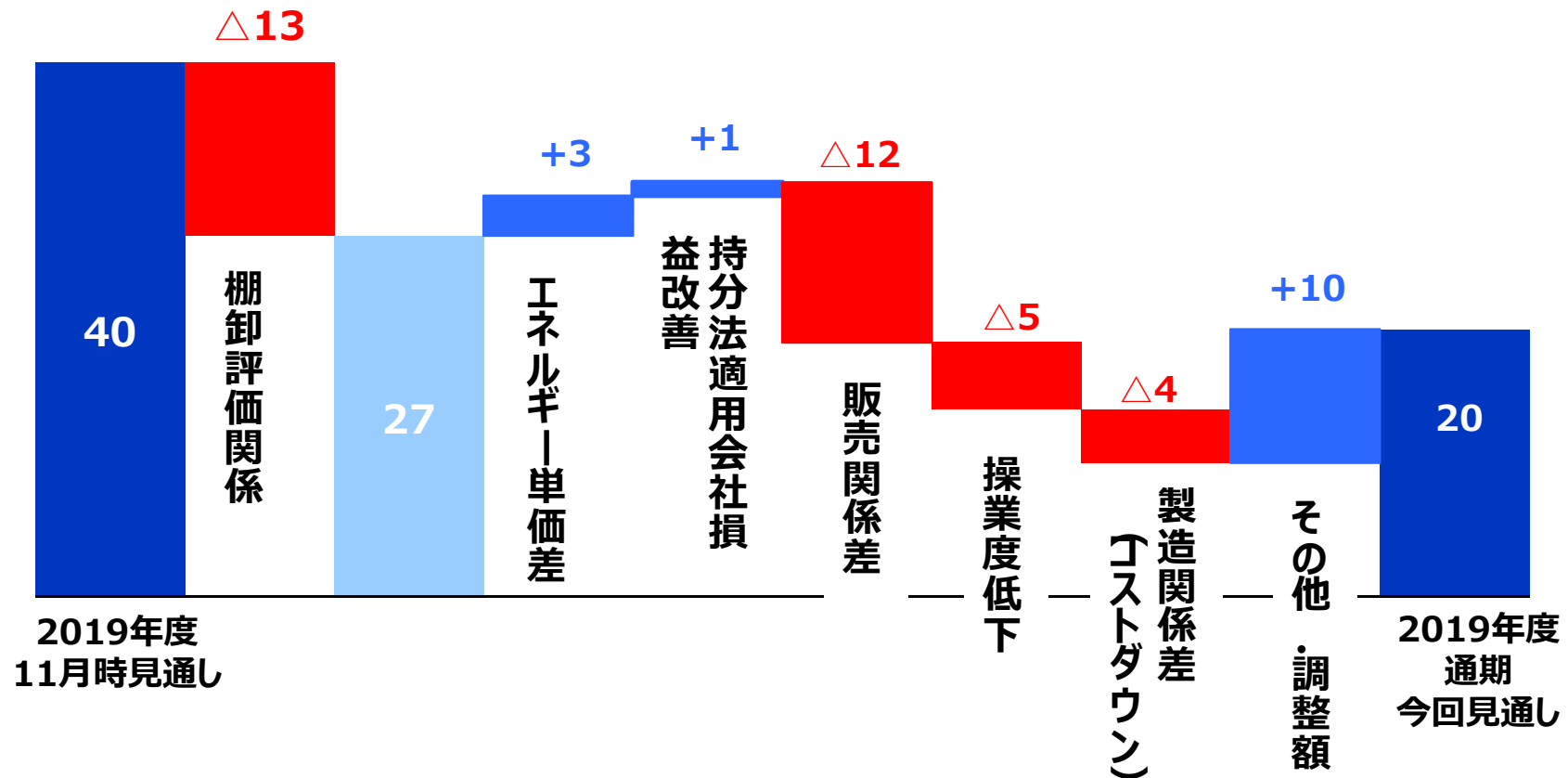
# 連結経常損益分析

(2019年度11月時見通し → 2019年度 今回見通し)



40億円 (2019年度11月時見通し) → 20億円 (2019年度 今回見通し)

(単位：億円)



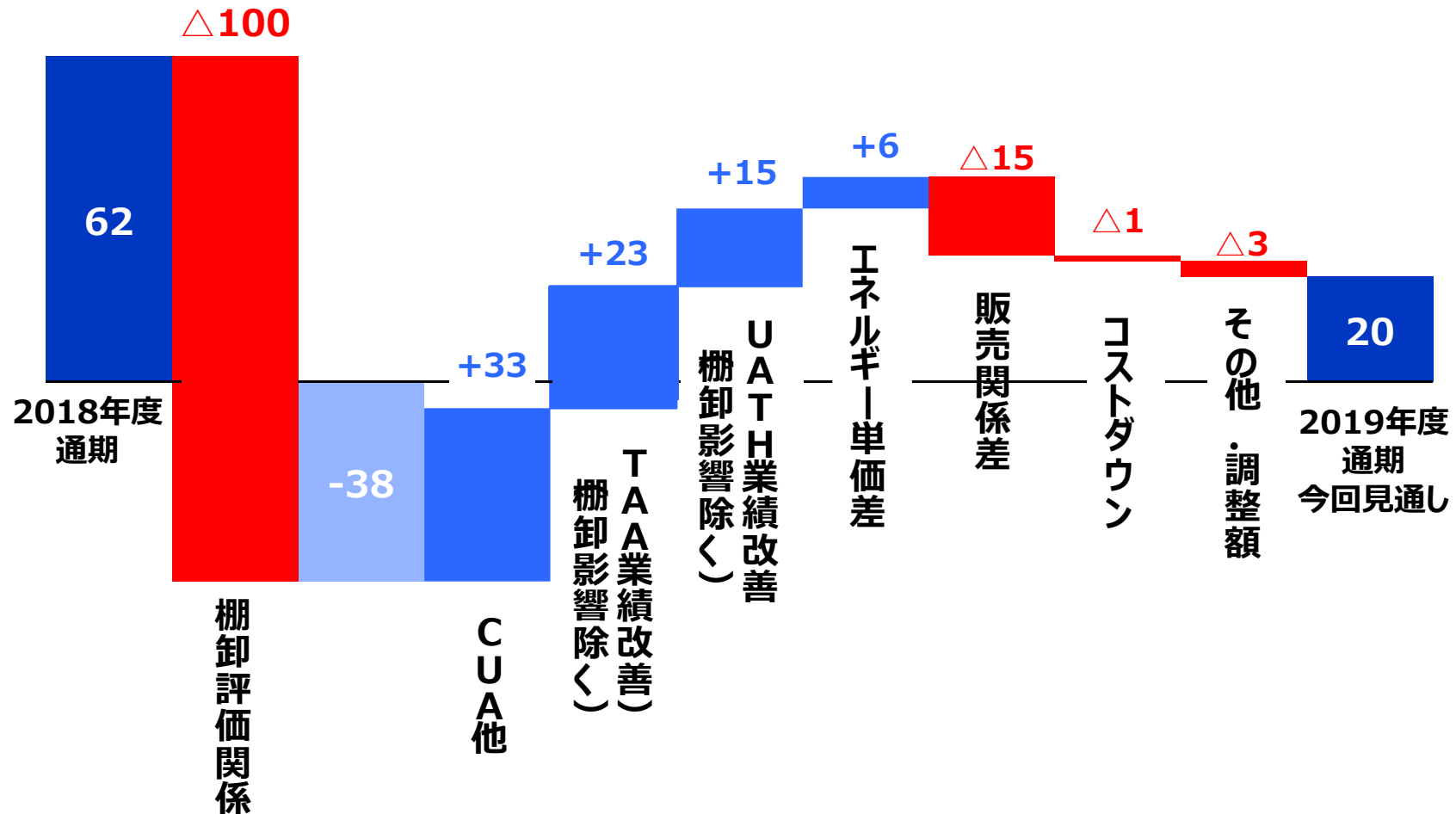
# 連結経常損益分析

(2018年度 → 2019年度 今回見通し)



62億円 (2018年度) → 20億円 (2019年度 今回見通し)

(単位：億円)



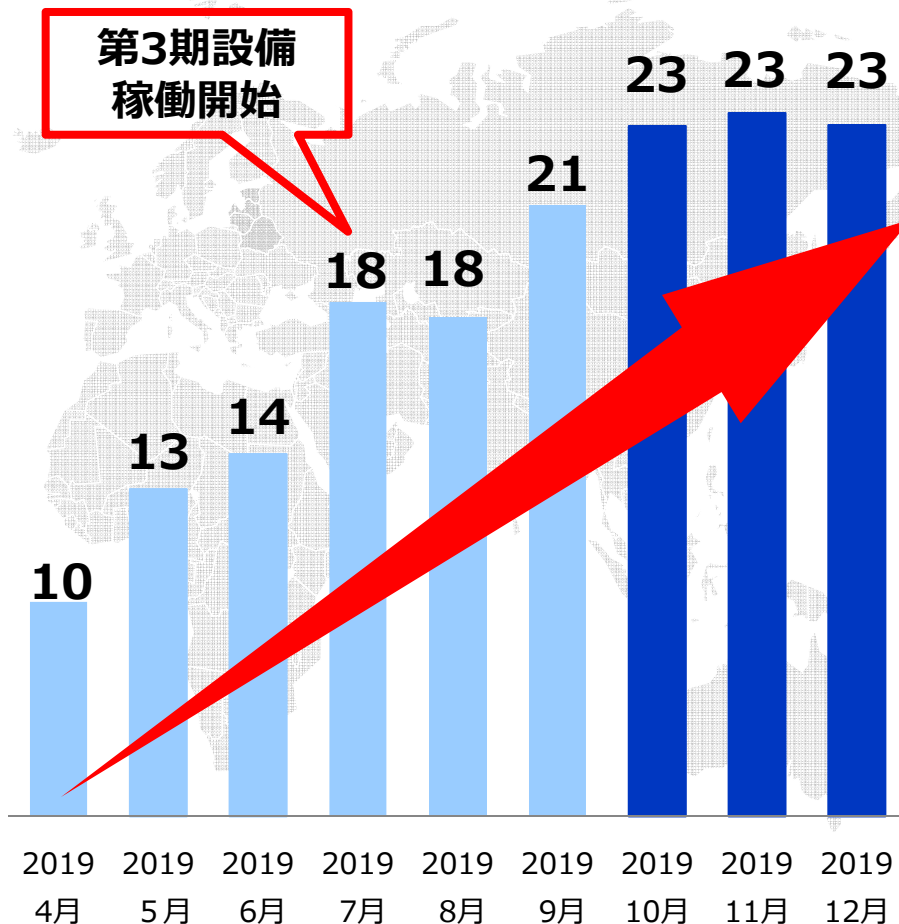
### **3. タイ(UATH)の状況 ～2019年度3Q総括と今後の見通し**

# タイ(UATH)の状況 ~2019年度3Q総括と今後の見通し



## 第3期設備稼働により月産2万トン体制を確立

UATH 月次生産量 (単位: 千t)



第3期設備  
稼働開始

### 3Q総括

- ・缶材需要：アジア地域を中心に堅調
- ・生産量：約18千t/月 (7~9月)
- ・販売量：約16千t/月 (7~9月)
- ・損益：概ね想定通り進捗

### 4Qの状況

- ・缶材需要：北米・アジア地域を中心に引き続き堅調
- ・生産量：約23千t/月 (10~12月)
- ・販売量：約22千t/月 (10~12月)
- ・損益：単月ベースで4Q営業黒字を確保



## 4. 構造改革の進捗

## 構造改革の各施策は計画通りに進捗

### 生産拠点の集約

- **深谷製造所下工程停止**
  - 名古屋・福井への集約に向けて主要顧客向けサンプル製造段階まで進捗
- **日光製造所閉鎖**
  - 自動車熱交材のUMP\*への集約に向け顧客と協議中

### 大型投資収益化

- **UATH**
  - 第3期投資設備が本格稼働し、10-12月期 営業利益黒字化達成
- **TAA**
  - 新鑄造設備（スクラップ溶解炉）が稼働し、利益貢献
  - 4Q新冷間圧延ライン稼働  
旺盛な需要に応える増産体制確立

### 不採算分野/ノンコア分野再編

- **売却・撤退候補の検討進行中**
  - 売却・撤退する候補先を選定し、一部売却・撤退の交渉を開始
- **海外事業**
  - タイ加工品事業：60名削減実施  
設備集約による操業効率化で年末黒字化

### ガバナンス・マネジメント

- **取締役会・役員体制の見直し**
  - 役員体制のスリム化を2020年度実施
- **コーポレート機能改革**
  - 本部制への移行プランを作成
- **風土改革の推進**
  - 新・企業理念体系を新年度に向け策定

## 日光製造所の閉鎖、深谷製造所下工程停止は計画通り進捗

方針	施策
生産拠点の集約化による 固定費削減・稼働率向上	<ul style="list-style-type: none"><li>● 日光製造所閉鎖→自動車熱交材のUMP*への集約</li><li>● 深谷製造所下工程停止 →名古屋・福井へ集約</li><li>● 押出小山/名古屋 プレス集約と最適化</li></ul>

### ■ 進捗状況

- **深谷製造所下工程停止:** 名古屋・福井への集約に向けて顧客向けサンプル製造段階まで進捗  
(一部停止: 2019年4Q / 停止完了: 2021年4Q)
- **日光製造所閉鎖:** 自動車熱交材のUMPへの集約に向けて顧客と協議中  
(移管完了: 2020年4Q)
- **日光・深谷製造所:** 配置転換・人事異動について労使間で調整中
- **押出小山/名古屋:** 名古屋製作所に最新鋭プレスを設置 (2019年4Q)  
旧型プレスを停止し、生産の集約を開始

役員体制をスリム化し、責任・権限の明確化・意思決定スピードの向上を図る

現行体制

新体制予定

執行役員 27名

半減目途

社内取締役 8名  
(執行役員と兼務)

2割減目途

社外取締役 4名

現状維持

責任・権限の明確化

意思決定のスピード向上

役員報酬制度の見直し  
(TSRの導入)

2020年度より、業績連動報酬の評価指標として現状の Adjusted EBITDA、ROICに加え、TSR\*を採用する

後継者育成と選定

社長・役員後継者育成計画の運用を開始

現状のコーポレート組織体系を見直し、構造改革の実現に向けガバナンス強化

現行組織体制

- 担当役員こそいるものの、18部門が併存し、組織間連携、事業サポートに課題

新体制

- 組織ごとの機能を明確にした本部制へ移行
- BPRによる機能見直しによるスリム化
- 社会ニーズに沿った新部署も設置し、ガバナンスを強化

事業環境の一層の悪化を踏まえた、販売生産への影響の精査と改革の修正

## 構造改革発表時からの変化

- **米中貿易摩擦の長期化による世界経済の停滞**

- 自動車関連市場
- 電子材料関連市場

- **国内事業環境の悪化**

- 海外材流入の拡大

- **地政学リスクの顕在化**

- 新型コロナウイルス拡大による企業生産・貿易の停滞懸念
- 中東リスク拡大

## 今後の進め方

事業毎モニタリングと環境精査

足元の販売環境の悪化要因精査

= 一過性なのか？ 構造的なものか？

モニタリング結果に応じて

構造改革各項目の修正、追加施策立案と実行

# ご参考データ

# アルミ板 品種別売上数量（最新見通し）



品 種	2018年度 (A)	2019年度 (5月時見通し) (B)	2019年度 (最新見通し) (C)	増 減 (C) - (B)	増 減 (C) - (A)
缶 材	666	722	714	△8	49
箔 地	50	52	43	△10	△7
I T	15	15	17	1	1
自 動 車	147	164	151	△12	4
厚 板	40	42	36	△6	△4
その他一般材	177	194	198	4	22
合 計	1,094	1,190	1,159	△31	65
	国内市場向け 504 海外市場向け 590	国内市場向け 523 海外市場向け 667	国内市場向け 479 海外市場向け 680	△44 13	△25 90



# 2019年度 セグメント別 売上高・営業利益 見通し



(単位：億円)

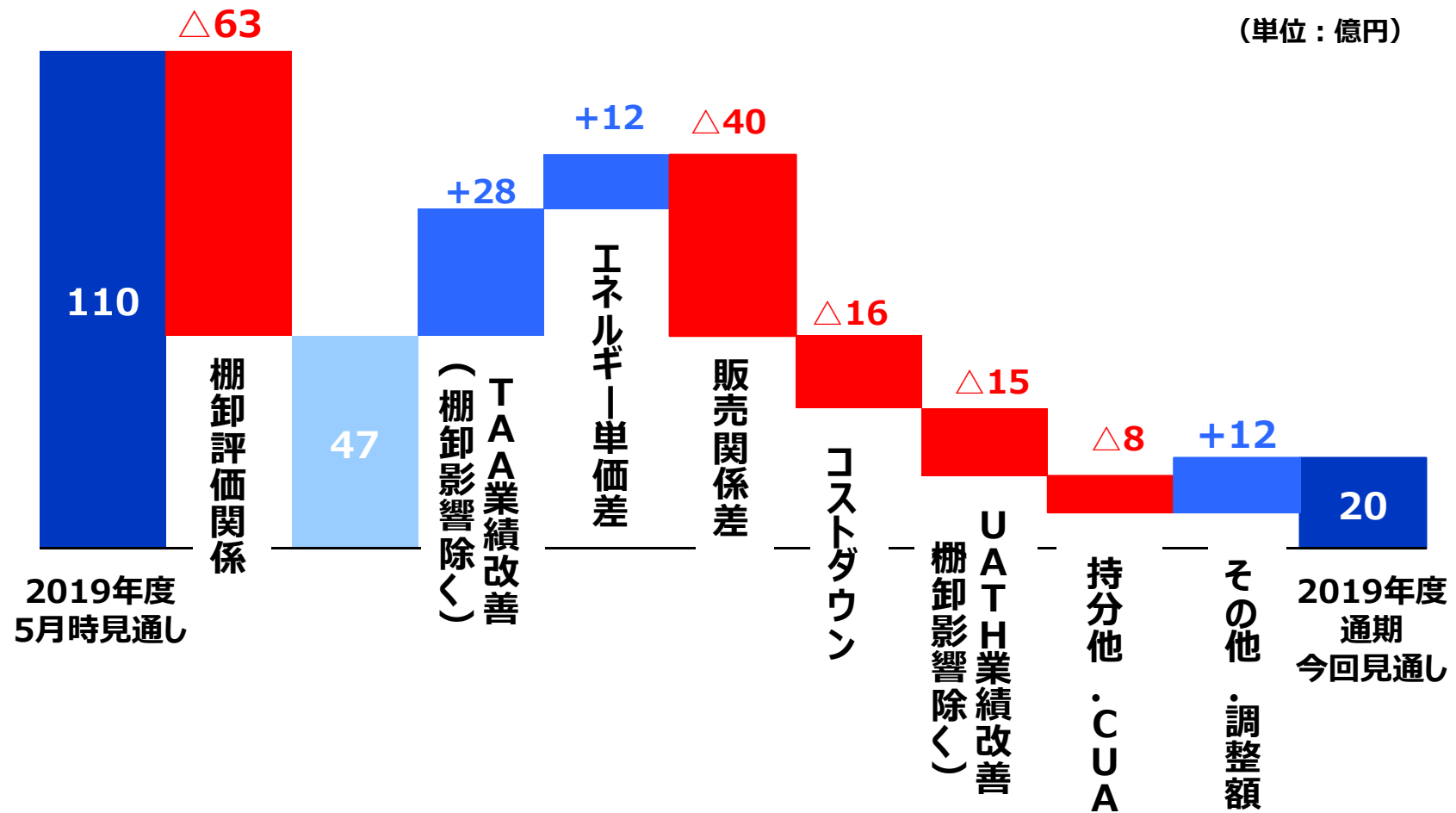
	2018年度 (A)		2019年度 (11月時見通し) (B)		2019年度 (今回見通し) (C)		増減 (C) - (B)		増減 (C) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ 圧延品	5,307	170	5,425	133	5,038	105	△387	△28	△269	△65
伸銅品	475	17	229	4	229	4	-	-	△246	△13
加工品・ 関連事業	1,971	31	2,087	30	1,965	28	△122	△2	△6	△3
(調整額)	△1,140	△70	△1,041	△67	△982	△62	59	5	158	8
合計	6,613	149	6,700	100	6,250	75	△450	△25	△363	△74

# 連結経常損益分析

(2019年度5月時見通し → 2019年度 今回見通し)



110億円 (2019年度 5月時見通し) → 20億円 (2019年度 今回見通し)

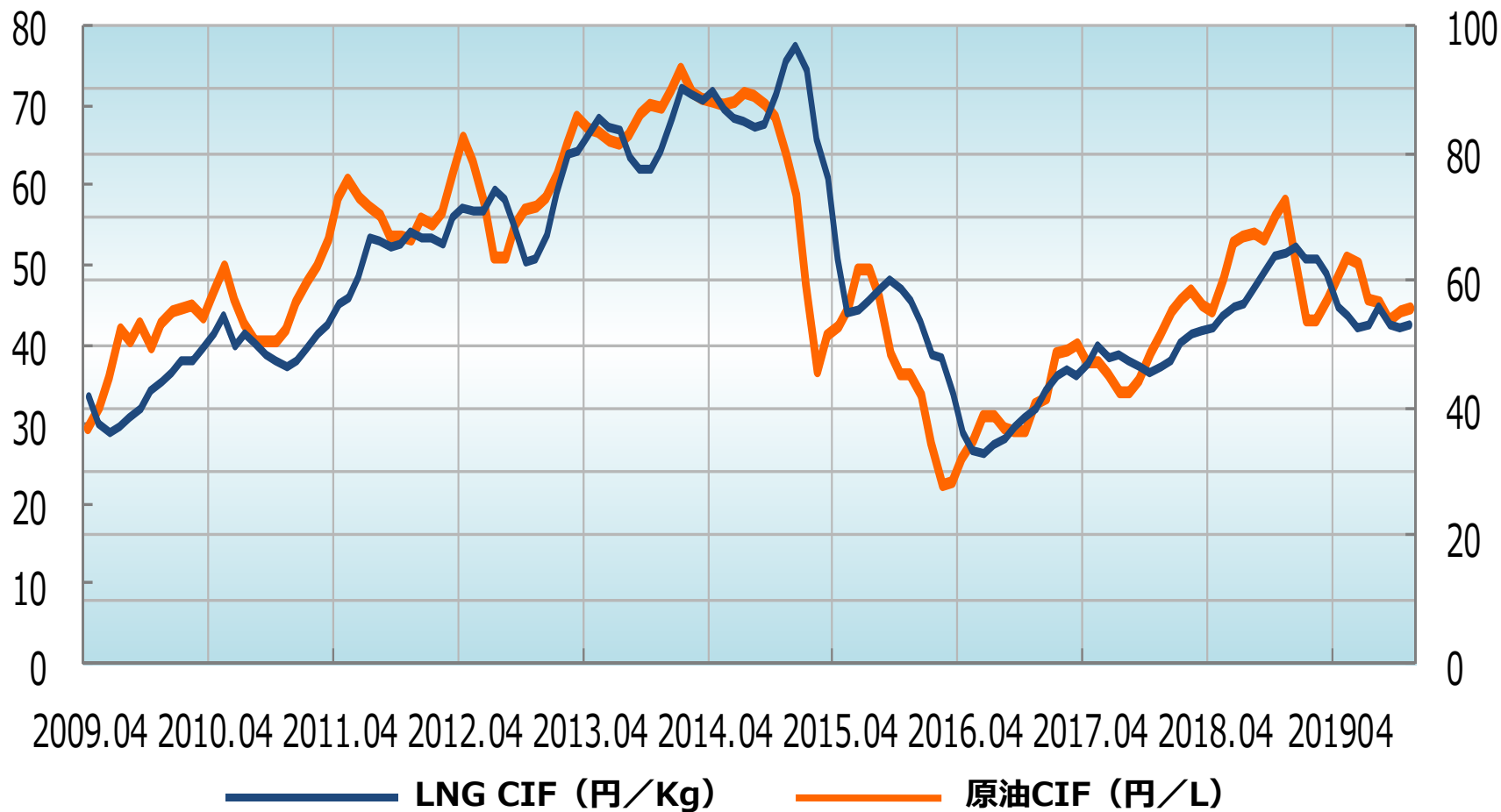


# 燃料単価推移



原油 CIF  
(円/L)

LNG CIF  
(円/Kg)



# アルミ地金日経平均・アルミ基準地金

(円/Kg)



	2018年度 (実績)	2019年度 (3Q期中平均)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	284	248	10円/kg上昇した場合 → +20~+30億円/年
LME (米\$)	2,035	1,780	\$100/t上昇した場合 → +22~+35億円/年
為替 (円/米\$)	111	109	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.5	
原油 (ドバイ：米\$)	72	64	10ドル上昇した場合 → △10~△15億円/年

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびに I R 関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)